

事業概要

(令和3年度のまとめ)



京都府立図書館

目 次

I	概要	
1	京都府立図書館の概要	1
2	令和3年度のトピックス	1
	(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	
	(2) 改築20周年記念事業	
	(3) 「CONNECT ² 」 and DOMANI展	
3	令和3年度の主な利用状況等	6
II	図書館資料	
1	総資料・年間収集資料	7
	(1) 総資料数	
	(2) 年間収集資料数	
2	図書	7
	(1) 資料数	
	(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数	
	(3) 視聴覚資料・障害者用資料数	
3	逐次刊行物	8
III	利用状況	
1	開館日	9
2	入館者	9
3	新規利用登録者	9
4	ホームページアクセス	9
5	個人貸出	9
	(1) 貸出者数	
	(2) 貸出図書数	
	(3) 借受提供数	
6	複写利用	10
7	調査相談等	10
	(1) レファレンス	
	(2) 他館紹介状発行	
	(3) 他館所蔵資料複写	
	(4) 当館所蔵資料郵送複写	
8	障害のある方へのサービス	10
	(1) 対面朗読サービス	
	(2) 点字・音声資料貸出	
	(3) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」利用	
9	マルチメディア利用	11
10	図書館等への貸出	11
	(1) 相互貸借	

(2) 機関貸出	
(3) 一括貸出 (貸出文庫)	
11 学校への貸出	12
IV 事業	
1 市町村連携・市町村支援	13
(1) 府内の各図書館とのネットワークの強化	
(2) 連絡協力車	
(3) 市町村立図書館等の研修等	
(4) 京都府図書館等連絡協議会	
2 学校支援等	17
(1) 学校支援セット	
(2) 来館型調べ学習等	
(3) 子どもへの読書活動支援事業・不登校児童生徒読書活動支援事業	
3 調査研究・課題解決支援及び情報発信	18
(1) 大学連携	
(2) 京都市図書館との図書相互返却	
(3) 館内見学会	
(4) 講演会・セミナー等	
(5) 資料展示	
(6) ナレッジベース (知的な交流の場)	
(7) 地域連携	
(8) 広報	
V 施設等	
1 施設及び設備等	24
2 組織	25
3 経費	25
VI 沿革	
1 年表	26
2 歴代館長	31
資料	32
・京都府立図書館基本方針 (令和3年4月改定)	
・京都府立図書館資料収集方針 (平成28年12月改正)	
・京都府立図書館サービス計画(令和3年3月策定)	

I 概 要

1 京都府立図書館の概要

京都府立図書館（以下「府立図書館という」）は、日本で最初の公立の図書館である「集書院」を源流とし、明治31年に京都御苑内に設立され明治42年に現在の岡崎の地に移転して以来、100年を超える長い歴史と伝統を刻んでいる。

平成7年の阪神・淡路大震災により建物が大きく損傷したため、ルネサンス風の外壁正面部を残して建替工事を進め、平成13年に地上4階地下2階建の新館を開館した。この間に、京都府の社会教育委員会議から市町村立図書館との役割分担を打ち出した「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について」の提言を受け、明治の雰囲気を残した現在の建物で、特に市町村支援と調査研究支援を中心とする取組を進めてきた。

平成27年度に策定した「京都府立図書館基本方針」に基づき、5か年ごとに「京都府立図書館サービス計画」（以下「サービス計画」という。）の中で新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指した取組を進めている。

令和3年度はサービス計画（第3期）の初年度に当たることから、図書館サービスのさらなる向上と様々な機関との連携の拡充に努めるとともに、新館開館20周年を迎え「改築20周年記念事業」として様々な講演会や記念展示等を実施したところである。

【基本方針（サービス計画 第3期）】

- I 府内全域の図書館等をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します
- II 多様な文化資源の情報を取り扱い、幅広い調査研究のニーズに応えます
- III 大学等研究機関や文化施設等と連携するとともに、多様な議論の場を提供することにより、文化の振興と地域の活性化に寄与します

2 令和3年度のトピックス

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

令和2年1月以降、世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症は、令和3年度も府立図書館の運営にも大きな影響を及ぼした。

京都府新型コロナウイルス感染症対策本部が決定する京都府緊急事態措置や京都府まん延防止等重点措置を踏まえ、公益社団法人日本図書館協会が定める図書館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインに基づく感染拡大防止に努めながら開館を継続した。

ア 主な感染拡大防止対応

対応	取組内容
換気の悪い密閉空間 《密閉空間》	<ul style="list-style-type: none">○ 室外との循環器型冷暖房機による換気○ 定時に窓を開閉し換気○ 各階で二酸化炭素濃度を測定
人が密集 《密集場所》	<ul style="list-style-type: none">○ 閲覧席を30%削減○ 職員巡回による混雑状況の確認○ 開館時間中も返却ポストを常時運用（入口外側に設置）○ 返却カウンター前に「専用ブックトラック」を設置し、職員と会話なく資料の返却可能

近距離での会話・発声 ≪密接場所≫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全閲覧席、インターネット・データベース端末機、カウンターにパーティションを設置 ○ 職員はマスクを着用。来館者にも正しい着用を働きかけ ○ オンライン対面朗読を令和4年1月5日から試行開始
接触感染の回避	<ul style="list-style-type: none"> ○ 館内各所に手指消毒用アルコール液を設置 ○ 返却本等について <ul style="list-style-type: none"> ・ 閲覧図書は書架ではなく所定の場所に返却 ・ ブックカバーが装着された図書は、アルコール消毒液で拭き取り ・ ブックカバー未装着の本は、ハンディモップで拭き取り ・ 館内パソコンのキーボードは、ハンディモップで拭き取り ○ 来館者に対して <ul style="list-style-type: none"> ・ 発熱・体調の悪いときの来館自粛、正しいマスクの着用、きめ細やかな手洗、手指消毒の案内、できるだけ短時間での利用の依頼 ・ 「京都府コロナ追跡サービス～スマートフォンアプリ『こことろ』」厚生労働省「新型コロナウイルス接触確認アプリ『COCOA』」の登録案内 ○ 職員に対して <ul style="list-style-type: none"> ・ 出勤前の検温…発熱・体調の悪いときは出勤しない。 ・ 正しいマスクの着用、きめ細やかな手洗、手指消毒 ・ 昼食時の黙食、昼食場所の分散 ・ 「京都府コロナ追跡サービス～スマートフォンアプリ『こことろ』」、厚生労働省「新型コロナウイルス接触確認アプリ『COCOA』」の登録推奨 ○ 委託業者（ビル管理、清掃等）に対して <ul style="list-style-type: none"> ・ 出勤前の検温…発熱・体調の悪いときは出勤しない。 ・ 正しいマスクの着用、きめ細やかな手洗 ・ 従事する従業員が医師の指示又は濃厚接触者になった場合の速やかな報告 ○ 館内掲示、館内放送により感染拡大防止への協力を周知 <p style="text-align: right;">等</p>

イ 対応経過

期間	対応
R2. 2. 24～R2. 3. 5	特別整理期間による休館
R2. 3. 6～R2. 3. 23	感染拡大防止のため臨時休館
R2. 3. 24～R2. 4. 3	開館（閲覧席を4割程度削減）
R2. 4. 4～R2. 5. 21	感染拡大防止のため臨時休館 ※京都府緊急事態措置①R2. 4. 7～R2. 5. 21
R2. 4. 7	7都府県に緊急事態宣言
R2. 4. 16	緊急事態宣言を京都府含む全国に拡大(5/14 39県は解除)
R2. 5. 21	緊急事態宣言 近畿2府1県で解除（京都、大阪、兵庫）
R2. 5. 22～	サービスを限定して開館 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書資料の貸出・返却のみ ・ 1階及び地下1階の閲覧席、2階（新聞、データベース、インターネット等）は閉鎖 ・ 開館時間の短縮 平日 9:30～17:00 に短縮（通常 9:30～19:00） ※土日は従来から 9:30～17:00

R2. 6. 3～	サービス一部再開 ・館内での複写 ・館内での短時間の調査相談（レファレンス） ・他館からの取り寄せ
R2. 6. 12～	サービス一部再開 ◇1階及び地下1階閲覧席の利用（約50%） ・雑誌の閲覧 ◇2階閲覧室の利用（閲覧席約50%削減 端末利用回数制限） ・新聞の閲覧 ・マイクロフィルムの利用 ・オンラインデータベース（新聞データベースを含む）の利用 ・国立国会図書館デジタル化資料の利用 ・インターネット端末の利用（※AVブースは閉鎖） ◇休憩スペース、コインロッカー、自動販売機の利用 （休憩スペースも座席削減）
R2. 7. 1～	サービス一部再開（2階AVブース及び対面朗読）
R2. 7. 29～R2. 9. 30	サービスの一部拡充 ・1階及び地下1階閲覧席、2階のインターネット・データベースにパーティションを設置 ・閲覧席の拡充（約50%を約70%に）
R2. 10. 1～	利用制限全面解除（全面開館） 平日：9:30～19:00 土日祝：9:30～17:00 閲覧席すべて利用可 感染対策の拡充 ・館内の換気を1日2回から3回に拡充（エアコンによる外気循環あり） ・手指消毒用アルコールの設置個所の拡充（1か所→3か所（11月から））
R3. 1. 16～	※京都府緊急事態措置②R3. 1. 14～R3. 2. 28 国の緊急事態宣言発出に伴い一部利用制限 閲覧席を30%削減（開館時間は通常どおり）
R3. 2. 28	京都府の緊急事態宣言を解除 閲覧席の30%削減は継続
R3. 4. 12～	※京都府まん延防止等重点措置①R3. 4. 12～R3. 4. 24 まん延防止等重点措置 閲覧席の30%削減は継続
R3. 4. 25～R3. 5. 11 R3. 5. 12～R3. 5. 31 R3. 6. 1～R3. 6. 20	※京都府緊急事態措置③R3. 4. 25～R3. 6. 20 緊急事態宣言発出 開館時間の短縮（平日9:30～17:00（通常9:30～19:00）） 2階AVブース閉鎖（長時間の利用を抑止） 閲覧席の30%削減は継続
R3. 6. 21～R3. 7. 11	※京都府まん延防止等重点措置②R3. 6. 21～R3. 7. 11 緊急事態宣言解除（まん延防止重点措置に移行）によりサービス一部再開 平日の開館時間を通常に戻す（9:30～19:00） 2階AVブース再開 閲覧席の30%削減は継続・短時間での利用を呼びかけ
R3. 7. 12～R3. 8. 1	まん延防止等重点措置解除 ※対応は継続 開館時間は通常どおり。閲覧席は30%削減。全サービス実施。

	できるだけ短時間での利用の呼びかけ継続。
R3. 8. 2～R3. 8. 19	※京都府まん延防止等重点措置③R3. 8. 2～R3. 8. 19 まん延防止等重点措置（対応は継続） 開館時間は通常どおり。閲覧席は30%削減。全サービス実施。 できるだけ短時間での利用の呼びかけ継続。
R3. 8. 20～R3. 9. 30	※京都府緊急事態措置④R3. 8. 20～R3. 9. 12 ⑤延長（R3. 9. 30） 緊急事態宣言発出 平日の開館時間を9:30～18:00に1時間短縮 AVブースを閉鎖 インターネット席の利用更新不可 （通常更新1時間×2回可。計3時間） 混雑の状況により入館制限（又は2階の入室制限）の可能性を告知 （ホームページ及び掲示） 閲覧席の30%削減、できるだけ短時間での利用の呼びかけ継続
R3. 10. 1～R4. 1. 26	緊急事態宣言解除 平日の開館時間を通常に戻す（9:30～19:00）。全サービス実施 閲覧席の30%削減、できるだけ短時間での利用の呼びかけ継続
R4. 1. 27～R4. 3. 21	※オミクロン株による感染拡大への対応（R4. 1. 25 京都府） ※京都府まん延防止等重点措置④R4. 1. 27～R4. 2. 20 ⑤延長 R4. 2. 21～R4. 3. 6 ⑥延長 R4. 3. 7～R4. 3. 21 まん延防止等重点措置 開館時間は通常どおり。閲覧席は30%削減。全サービス実施。 できるだけ短時間での利用の呼びかけ継続。 手指消毒用アルコールの設置個所を追加（2月から） （利用者用休憩スペース・エントランス2個・各階1個 計6個）
R4. 3. 22～	まん延防止等重点措置解除 実施中の対応を継続

ウ オンライン対面朗読の開始

府立図書館では、これまでから視覚障害のある方にも利用いただけるよう「対面朗読」の実施や本を朗読した音声収録されている「DAISY（デイジー）図書」の視聴・貸出、活字などによる読書が困難な方を対象に様々な情報提供を行うネットワーク「サピエ」への登録受付など、様々なサービスを提供している。

このうち、対面朗読については、2室ある対面朗読室それぞれにワイヤレスマイクとスピーカーを設置して互いの声が相手の部屋から聞こえるようにし、利用者と音訳者が分かれて入室することにより、感染対策を図りながらサービスを継続している。

令和4年1月からは、ZOOMを活用した「オンライン対面朗読」の試行を開始しており、音訳者は対面朗読室から朗読を行い、利用者は自宅でZOOMで視聴できるようになり、26回の利用があった。

令和4年4月には本格実施に移行し、4月1日から30日の1か月間に10回利用されるなど、オンライン対面朗読の利用は増加している。

エ 電子書籍及びオーディオブックの整備

府立図書館では、調査研究支援の強化及び来館が困難な利用者や新型コロナウイルスへの対応としてのオンラインサービスの充実を図るため、電子書籍及びオーディオブックを、令和3年度に整備し、令和4年4月30日から利用者へのサービス提供を開始した。

電子書籍は、利用形式を閲覧型（閲覧時のみ利用者が占有）とし、利用対象者を京都府内在住、通学・通勤している利用者に限ることとした。令和3年度時点のコンテンツ数は、約3,000点で、収集方針に基づき調査研究資料、生涯学習資料、学校図書館振興資料、京都関係資料、多言語・多文化関係資料の分野から選書した。

オーディオブックは、本の朗読をストリーミングで聴く音声コンテンツで、電子書籍と同じ条件の利用者に対してサービスを提供することとした。令和3年度時点のコンテンツ数は、約5,500点である。

(2) 改築20周年記念事業

当館は阪神淡路大震災で建物が被災を受けたことを契機に建替工事をし、平成13（2001）年5月、外壁正面部を保存して新館が開館した。旧館の設計者、武田五一の瀟洒なデザイン性は建物だけでなく調度品にも色濃く反映され、パンフレット等で公開していたが、他にも扉や階段手すり等の建造物を保存していた。改築から20年を機に公開することとし、半年間のエントランス展示（3回展示替え）と、未来に継承すべく風除室での恒久展示の2種の展示を行った。その方法や展示物の選択は建築史家に参画を依頼し検討を重ねた。また、風除室の扉2点の展示は、国際ソロプチミスト京都のご厚志により実施できた。

なお、令和3年度に実施した講演会等の取組は「改築20周年記念」を冠し、往時を想起しつつ現在の図書館事業を進めることができた。

(3) 「CONNECT≡__」 and DOMANI 展

12月の障害者週間を中心に、岡崎地域の文化施設が協同して共生と文化を考えるプログラム「CONNECT≡__」（文化庁、京都国立近代美術館主催）第2回目が実施された。当館は11月30日～12月19日の間、「おどろきの『群書類従』！」と題した展示や講演会により、江戸時代の盲人の学者が成し遂げた偉業の紹介をとおり、今に通じる共生のあり方を提起した。また同時に、現代美術家が当館中庭や館内の随所に作品を設置した展覧会（DOMANI）とも結びつけた。当館が明治期から所有している「公孫樹文花瓶」の作者、初代宮永東山の曾孫である宮永愛子が、時空間を超えたつながりのアートを展開した。京都新聞、毎日新聞、Webメディアへの掲載もあり、多様な来館者が訪れる契機となった。

3 令和3年度の主な利用状況（貸出冊数）

区 分	令和2年度	令和3年度
総 資 料 数	1,321,195 冊	1,340,611 冊
開 館 日 数	247 日	288 日
入 館 者 数 (1日平均)	172,424 人 (698 人)	219,073 人 (761 人)
新 規 利 用 登 録 者 数	3,957 人	4,322 人
ホ ー ム ペ ー ジ ア ク セ ス 件 数	443,649 件	436,432 件
個 人 貸 出 冊 数 (1日平均)	160,509 冊 (650 冊)	194,967 冊 (677 冊)
複 写 利 用 枚 数	163,320 枚	206,883 枚
調 査 相 談 件 数	11,815 件	14,198 件
マ ル チ メ デ ィ ア 利 用 者 数	30,400 人	42,404 人
図 書 館 等 へ の 貸 出 冊 数		
・ 府内市町村立図書館等 (うち相互貸借)	36,347 冊 (21,031 冊)	43,679 冊 (22,958 冊)
(うち機関貸出)	(356 冊)	(409 冊)
(うち貸出文庫)	(14,960 冊)	(20,312 冊)
・ 他府県立公共図書館・大学等	405 冊	420 冊
・ 学校図書館 (うち学校支援セット)	27,449 冊 (22,778 冊)	25,847 冊 (20,641 冊)
(うち機関貸出)	(4,671 冊)	(5,206 冊)
子ども読書支援事業による貸出	1,190 冊	1,200 冊
不登校児童生徒読書活動支援事業による貸出	150 冊	200 冊
京都府家庭支援総合センターへの貸出	400 冊	400 冊
備 考	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館4月4日～5月21日(48日間)除く。2階マルチメディア閲覧室は4月4日～6月11日まで閉鎖(開館日数229日間)	

京都市との返却本お預かりサービス

区 分	令和2年度	令和3年度
京 都 市 の 本 を 府 で 返 却	2,009 冊	2,271 冊
府 の 本 を 京 都 市 で 返 却	7,339 冊	8,884 冊

Ⅱ 図書館資料

1 総資料・年間収集資料

- (1) 総資料数 1,340,611 冊
 うち図書 1,026,066 冊
 うち逐次刊行物（図書換算） 314,545 冊
- (2) 年間収集資料数 図書（視聴覚資料を含む。） 14,108 冊
 逐次刊行物（購入分のみ。） 369 タイトル

2 図書

(1) 資料数

区 分	3 年 度 受 入 冊 数				3 年 度 末 資 料 数			
		購入	寄贈	その他		児童書	京都資料	外国語資料
閲覧・貸出用	10,146	7,901	1,977	268	894,226	47,076	27,779	19,525
図書資料	9,871	7,696	1,923	252	869,996	47,076	27,779	19,525
視聴覚資料	275	205	54	16	※24,230	0	0	0
貸出文庫等	3,962	3,929	32	1	131,840	131,840	0	0
合 計	14,108	11,830	2,009	269	1,026,066	178,916	27,779	19,525

（注）外国語資料には、児童書及び京都資料の外国語資料を含む。

※視聴覚資料について京都府立図書館システムによる集計点数を掲載（令和2年度から）

(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数

（単位：冊・％）

分 類	3 年 度 末 冊 数	百 分 比
0 総 記	43,643	(4.9)
1 哲 学	44,899	(5.0)
2 歴 史	97,276	(10.9)
3 社 会 科 学	192,659	(21.6)
4 自 然 科 学	56,432	(6.3)
5 技 術	63,579	(7.1)
6 産 業	46,721	(5.2)
7 芸 術	66,723	(7.5)
8 言 語	16,506	(1.8)
9 文 学	169,843	(19.0)
小 計	798,281	(89.3)
教 科 書	24,353	(2.7)
児 童 書	46,757	(5.2)
外 国 児 童	319	(0.1)
そ の 他	24,516	(2.7)
合 計	894,226	(100.0)

(3) 視聴覚資料・障害者用資料数

視聴覚資料 (単位：点数)

区	分	3年度末
C	D	833
C	D - R O M	1,696
D	V D	2,643
D	V D - R O M	503
ビデオテープ		3,116
カセットテープ		888
マイクロフィルム		9,272
マイクロフィッシュ		3,730
デ イ ジ ー		1,549
合 計		24,230

※京都府立図書館システムによる集計点数を掲載

障害者用資料 (単位：点数)

区	分	3年度末	摘 要
大	活 字 本	3,979	
点	字 図 書	286	
カセットテープ		888	上の表の「カセットテープ」の再掲
デ イ ジ ー		1,549	上の表の「デイジー」の再掲
合 計		6,702	

※京都府立図書館システムによる集計点数を掲載

3 逐次刊行物

(単位：タイトル)

区	分	3年度購入数
新	聞	16
雑	誌	353
合 計		369

Ⅲ 利用状況

- 1 開館日 288 日
- 2 入館者 219,073 人 (1日平均 761 人)
- 3 新規利用登録者 4,322 人 有効登録者累計 138,367 人
 うち 京都市内 80.5%
 その他府内 8.9%
 他府県 10.6%
- 4 ホームページアクセス 436,432 件
- 5 個人貸出 (利用登録を行っている人への貸出)
- (1) 貸出者数 延べ 67,343 人 (1日平均 234 人)
- (2) 貸出図書数 194,967 冊 (1日平均 677 冊)
- (3) 借受提供数 (他の図書館等から資料を借り受けて利用者に提供したもの)

借	受	先	借受冊数	摘	要
府	内	市町村立図書館等	1,039	地域別内訳は下表 (※)	
府	外	国立国会図書館	56	東京本館29冊 関西館27冊	
		府外公立図書館	848		
		府外大学図書館等	38		
		府外小計	942		
合	計		1,981		

※市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地域区分	借受冊数	百分比
京都市	93	(9.0)
乙訓地域	58	(5.5)
山城地域	399	(38.4)
南丹地域	113	(10.9)
中丹地域	132	(12.7)
丹後地域	113	(10.9)
その他	131	(12.6)
合計	1,039	(100.0)

6 複写利用

(単位：枚)

区 分	利用枚数	摘 要
図 書 資 料	177,371	白黒 170,355枚、カラー 7,016枚
CD-ROM、外部データベース	6,834	
マイクロフィルム	6,050	
国立国会図書館デジタル化資料	15,877	
遠 隔 地 複 写	751	遠隔地等の利用者（非来館者）に対して、当館所蔵資料の複写物を郵送するサービス
合 計	206,883	

7 調査相談等

(1) レファレンス (単位：件)

区 分	件 数
調 査 相 談	13,351
マルチメディア相談	804
市町村・府立学校からの調査相談	43
合 計	14,198

(2) 他館紹介状発行 36 件

(3) 他館所蔵資料複写 195 件

(4) 当館所蔵資料郵送複写 141 件

8 障害のある方へのサービス

(1) 対面朗読サービス (単位：人・時間)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	6	7	5	7	6	7	9	9	7	7	9	13	92
利用時間	12	14	10	14	12	14	18	18	14	14	18	26	184
(うちオンライン利用時間)										10	16	26	52

(2) 点字・音声資料貸出 (単位：点)

資料区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
テープ	4	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
CD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
デージー	15	10	15	9	12	24	18	10	17	11	14	11	166
合計	19	15	20	9	12	24	18	10	17	11	14	11	180

(注) 他館への協力貸出を含む。

(3) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」利用 (単位：件)

区 分	件 数
コンテンツダウンロード利用	239
オンラインリクエスト受信 (当館デジタル資料等の他館送付)	12
オンラインリクエスト送信 (他館デジタル資料等の借受提供)	13
合 計	264

9 マルチメディア利用

(単位：人)

利 用 区 分	利 用 者 数
インターネット閲覧端末	33,957
C D - R O M 閲覧端末	106
A V (映 像 ・ 音 声)	4,789
外部データベース閲覧端末	1,908
マイクロフィルム閲覧端末	671
国立国会図書館デジタル化資料閲覧端末	973
合 計	42,404

10 図書館等への貸出

(1) 相互貸借 (単位：冊)

貸 出 先	貸出冊数	摘 要
市 町 村 立 図 書 館 等	22,958	地域別内訳は下表(※)
他府県公立図書館・大学等	420	(学校への貸出を除く)
合 計	23,378	

※市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地 域 区 分	貸出冊数	百分比
京 都 市	3,654	(15.9%)
乙 訓 地 域	2,482	(10.8%)
山 城 地 域	6,789	(29.6%)
南 丹 地 域	3,746	(16.3%)
中 丹 地 域	2,846	(12.4%)
丹 後 地 域	2,910	(12.7%)
京都学・歴彩館、大学等	531	(2.3%)
合 計	22,958	(100.0%)

(注) 市町村立図書館等を経由し小中学校へ貸し出した学校支援セット等は含まない。

(2) 機関貸出 (単位：冊)

貸 出 先	貸出冊数	摘 要
府 の 機 関	392	地球温暖化防止対策課、文化政策課、総合政策課 他
そ の 他	17	
合 計	409	

(3) 一括貸出 (貸出文庫)

(単位：冊)

区 分	貸出冊数	摘 要
貸 出 文 庫	20,312	内訳 下表のとおり

※貸出内訳

(単位：冊)

貸 出 先	冊 数	貸 出 先	冊 数
大山崎町	719	宮津市	1,312
相楽東部広域連合	3,611	与謝野町	1,010
亀岡市	530	伊根町	4,250
南丹市	4,450	京丹後市	2,000
綾部市	1,200	府立聾学校	380
福知山市	850		

11 学校への貸出

(単位：冊・セット)

区 分		貸出冊数	貸出セット数
学校支援セット	府立学校版	6,994	252
	市町(組合)立小中学校への貸出	1,247	44
	市町村立図書館等への貸出	821	18
	府立高等学校への貸出	4,157	176
	府立特別支援学校への貸出	670	9
	総合教育センターへの貸出	99	5
	小中学校版	13,647	430
	市町(組合)立小中学校への貸出	11,152	360
	市町村立図書館等への貸出	717	18
	府立高等学校への貸出	1,173	35
	府立特別支援学校への貸出	461	12
	総合教育センターへの貸出	144	5
	小 計	20,641	682
	機関貸出	市町(組合)立小中学校への貸出	64
府立高等学校への貸出		4,694	
府立特別支援学校への貸出		256	
府総合教育センター・府議会への貸出		186	
私立学校への貸出		6	
小 計	5,206		
合 計	25,847		

IV 事 業

1 市町村連携・市町村支援

府立図書館では、約 134 万冊の蔵書や各種のデータベースを揃え、府民の調査研究に役立つ資料や情報を提供することはもちろん、府立図書館と府内の市町村立図書館等・連携大学図書館の膨大な蔵書をインターネット上で瞬時に一括検索できるシステムを構築するとともに、市町村立図書館等の利用者が必要とする図書等を搬送する「連絡協力車」を巡回運行することにより、南北に長い府域における図書サービスの地域間格差の解消に努めている。

府立図書館がセンター館となって運営するウェブアプリケーション「K-Libnet システム」を基盤とし、資料の相互貸借及び府立図書館が運行する連絡協力車を含むネットワーク全体を、京都府図書館総合目録ネットワーク（以下「K-Libnet」という。）という。

連絡協力車は、全ての市町村立図書館等及び府立学校、連携する大学図書館、国立国会図書館関西館、府立京都学・歴史館、京都ライトハウス情報ステーション、京都府議会図書館を巡回している。

各図書館等の利用者は、K-Libnet システムで検索して見つけた他の図書館の図書を身近な図書館で利用することができ、連絡協力車で運ばれるため送料の負担もない。府内のどこに住んでいても、身近な図書館で高度な図書館サービスを楽しむ環境の充実に向けて、取り組んでいる。

(1) 府内の各図書館とのネットワークの強化

府内の市町村立図書館・読書施設（以下「市町村立図書館等」という。）との相互貸借図書の搬送や府立学校への図書の搬送等のために運行している連絡協力車について、平成 29 年度からは市町村立図書館等及び連携している大学図書館には週 2 回、令和元年度からは全府立学校に巡回するなど拡充に努めてきた。

大学図書館との相互貸借については、令和 4 年 4 月 1 日現在、以下の 12 大学図書館である。

さらに、すべての府立特別支援学校や京都府総合教育センター、同北部研修所が K-Libnet に参加しており、参加機関は 103 機関（令和 4 年 4 月 1 日現在）となっている。

連携している大学図書館

京都先端科学大学図書館	京都工芸繊維大学附属図書館
京都大学附属図書館	京都府立大学附属図書館
京都教育大学附属図書館	京都ノートルダム女子大学図書館情報センター
福知山公立大学メディアセンター	京都橘大学図書館
佛教大学附属図書館	京都外国語大学附属図書館
京都府立医科大学附属図書館	京都女子大学図書館

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館の区分

区分	摘要
A参加館	K-Libnet システム内の「京都府図書館総合目録」に自館の蔵書データを提供し、他の参加館と相互協力を行う館（すなわち、図書の所蔵データを「京都府図書館総合目録」で検索できる館） さらに、蔵書データの提供方法によって以下のとおり細分化する。
	横断検索館 総合目録からの横断検索に対応し、リアルタイムで自館の蔵書データを提供する館
	データ提供館 総合目録に定期的に自館の蔵書データを直接送信して提供する館
	CiNii 検索館 CiNiiBooks に参加し、総合目録から CiNiiBooks への横断検索によって自館の蔵書データを提供する館
B参加館	総合目録への自館の蔵書データの提供は行わないが、K-Libnet システムを利用して他の参加館との相互協力を行う館
C参加館	府立の教育機関

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館一覧（令和4年4月1日現在）

図書館・読書施設の名称		A参加館			B参加館	C参加館
		横断検索館	データ提供館	CiNii検索館		
1	府立図書館 [センター館]	○				
2	府立京都学・歴彩館	○				
3	京都市図書館（20館）	○				
4	向日市立図書館	○				
5	長岡京市立図書館	○				
6	大山崎町立中央公民館図書室	○				
7	宇治市中央図書館（3館）	○				
8	城陽市立図書館	○				
9	久御山町立図書館	○				
10	八幡市立八幡市民図書館	○				
11	京田辺市立中央図書館	○				
12	井手町図書館	○				
13	宇治田原町立図書館		○			
14	木津川市立中央図書館（3館）	○				
15	精華町立図書館	○				
16	笠置町図書室				○	
17	和束町体験交流センター図書室	○				
18	南山城村図書室				○	
19	亀岡市立図書館中央館	○				
20	南丹市立中央図書館（4館）	○				
21	京丹波町中央公民館図書室等（3館）		○		○	
22	綾部市図書館	○				
23	福知山市立図書館中央館（4館）	○				
24	舞鶴市立図書館（2館）	○				
25	宮津市立図書館	○				

26	与謝野町立図書館（3館）	○				
27	伊根町コミュニティセンターほっと館図書情報室（2館）	○				
28	京丹後市立図書館（6館）	○				
29	京都ライトハウス情報ステーション	○				
30	京都先端科学大学図書館			○		
31	京都大学附属図書館			○		
32	京都教育大学附属図書館			○		
33	福知山公立大学メディアセンター			○		
34	佛教大学附属図書館			○		
35	京都府立医科大学附属図書館			○		
36	京都工芸繊維大学附属図書館			○		
37	京都府立大学附属図書館			○		
38	京都ノートルダム女子大学図書館情報センター			○		
39	京都橘大学図書館			○		
40	京都外国語大学付属図書館			○		
41	京都女子大学図書館			○		
42	京都府総合教育センター・同北部研修所					○
43	京都府議会図書館					○
44~ 103	府立学校 60校 （全 48 高等学校、全 12 特別支援学校）					○

(2) 連絡協力車

府内の市町村立図書館等との相互貸借図書や府立学校への図書の搬送等のため、毎週連絡協力車を運行している。

なお、京都市図書館とは週5回（双方の休館日を除く）、京都市のブックメール便が府立図書館に巡回している。

連絡協力車の巡回機関（令和4年4月1日）

区分	摘要
公共図書館等	市町村立図書館・読書施設（全26市町村）
大学図書館	京都先端科学大学図書館、京都大学附属図書館、京都教育大学附属図書館、福知山公立大学メディアセンター、佛教大学附属図書館、京都府立医科大学附属図書館、京都工芸繊維大学附属図書館、京都府立大学附属図書館、京都ノートルダム女子大学図書館情報センター、京都橘大学図書館、京都外国語大学付属図書館、京都女子大学図書館
連携機関	国立国会図書館関西館、府立京都学・歴史館、京都ライトハウス情報ステーション、京都府議会図書館
府立学校等	府立学校60校（全高等学校、特別支援学校） 京都府総合教育センター、同北部研修所

図書の搬送実績

	区分	搬送冊数	摘要
府内相互貸借	当館⇒市町村立図書館等	22,958冊	
	市町村立図書館等⇒当館	1,058冊	
	市町村立図書館間	37,371冊	
府立学校等機関貸出	当館⇒府立学校等	4,694冊	総合教育センター含む
学校支援セット貸出	府立学校・市町村立図書館等	20,641冊	直送含む
	合計	86,722冊	

(3) 市町村立図書館等の研修等

市町村立図書館等に勤務する職員の資質向上のため、研修を毎年度実施している。

令和3年度は相互協力初任者研修とレファレンスに関する初級・中級の研修をそれぞれ開催した。

また、市町村立図書館等の職員が身近な会場で研修に参加できるよう、府立図書館の職員が講師として市町村立図書館等に出向いて行う出前研修については平成30年度から実施しているが、令和3年度も、市町村立図書館等のニーズを踏まえ5回開催した。一部の研修については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、希望によりオンライン配信の形で開催した。

このほか、府立図書館の職員が市町村立図書館等を訪問し、相談や情報交換を行う職員巡回については、2回計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2回目はオンライン開催とした。

研修実績

日時	名称	内容	会場
5月27日(木)	相互協力初任者研修	相互貸借担当者説明	府立図書館
9月9日(木)	レファレンス研修(初級)	レファレンス講習	府立図書館
9月30日(木)	出前研修	本の修繕	南丹市立中央図書館
10月1日(金)	出前研修	業務入門	オンライン配信
10月20日(水)	レファレンス研修(中級)	レファレンス演習	府立図書館
10月28日(木)	出前研修	本の修繕	八幡市立八幡市民図書館
10月29日(金)	出前研修	レファレンス	木津川市立中央図書館
11月25日(木)	出前研修	本の修繕	大山崎町中央公民館 図書室

(4) 京都府図書館等連絡協議会

「京都府図書館等連絡協議会」(以下「京図連協」という。)は、本府における図書館事業等の振興及び相互の協力を図ることを目的とする組織であり、全26市町村の市町村立図書館等をはじめとする府内の48施設で構成されている。

京図連協は、研修研究事業・相互協力事業・広報事業など、府内一円での図書館サービスの向上に向けた取組を毎年度実施しているほか、「京都図書館大会」の実行委員会に参画したり、京都府教育委員会と共催で「子ども読書本のしおりコンテスト」を開催したりするなど、他機関との連携にも努めている。

令和3年11月29日に開催した京都図書館大会は、昨年度に引き続きオンラインで開催した。講師、参加者ともに会場に集合する必要がなく、チャットによる活発な意見交換など、参加者から高い評価を得た。

2 学校支援等

(1) 学校支援セット

「学校支援セット」は、調べ学習や読書、教室や学校図書館等での展示・貸出などに活用する本のセットである。府立図書館で環境や文化、仕事や防災等のジャンル・テーマごとに数十冊をセットにし、府内の小・中学校及び府立学校にセット単位で最大14週間学校に貸し出す取組を平成20年度に開始し、毎年、セット内容の充実と利便性の向上に努めている。図書の搬送は府立図書館が運行する連絡協力車で行い、市町村立小中学校は、近隣の市町村立図書館・読書施設で申込み及び返却、府立学校はK-Libnetにより直接申込みを行い連絡協力車による直接搬送、返却を行っている。いずれも送料を含め無料で利用できる。

令和3年度は、SDGs、感染症・ウイルス、日本の食、ヨシタケ・シンスケ絵本の各セットを追加し令和4年度からの活用に向け「学校支援セットのご案内」パンフレットをリニューアルした。

なお、学校支援セットとは別に、学校の希望に応じて1冊単位で図書を貸し出す「機関貸出」も実施している。

学校支援セットの内容（令和4年4月1日現在）

区分	ジャンル
府立学校版	環境／医療・福祉／教育／文化／社会／仕事／自然科学／芸術／ヤングアダルト／新学習指導要領対応／ミニ版／切り抜き速報／特別支援教育・絵本／特別支援教育・教員用
小中学校版	環境／古典／ことば・読み物／食育・健康／福祉・人権／国際理解／仕事／自然科学／防災／歴史・社会／国語教科書掲載作品／芸術・スポーツ／ヤングアダルト／新学習指導要領対応／特別支援教育・絵本／特別支援教育・教員用

(2) 来館型調べ学習等

児童・生徒の知的好奇心を喚起し読書を通じた学力の向上につなげるとともに、学生・生徒の探究型学習を支援し、大学や専門学校のゼミの受け入れ、関係団体と連携した講座の開催等を通じ、特に府立図書館にはじめて来館する方の利用促進を図ることを目的に、学校支援事業の一環として、小・中学生、高校生、大学生、専門学校生の見学や「調べ学習（探究型学習）」、府内の教職員の研修、市町（組合）教育委員会等の視察を受け入れている。

しかし、令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初から受け入れを控えたことから、学校の授業としての受け入れは、感染拡大が落ち着いた令和3年12月の1回（中学校1校）のみとなった。

また、京都府教育委員会認定フリースクールへの貸出に当たり、来館した児童生徒が自ら選書を行う取組を実施したところであるが、その際、館内見学をあわせて実施した。

来館型調べ学習等の受入内容

主な対象	内容・ねらい
小学生 中学生	【図書館見学】 府立図書館の閲覧室はもちろん自動化書庫等図書館内を案内し、約134万冊の蔵書規模を実感させるとともに、地元の図書館や学校図書館と府立図書館との役割分担について理解させる。
高校生 大学生 専門学校生	【調べ学習】 館内を見学し、図書館の利用法や資料の探し方の説明を受けた後、それぞれのテーマに沿って、府立図書館の資料を利用した調べ学習・探究型学習を行う。

教員 教育委員会 行政機関等	【視察等】 府立図書館の学校支援制度の活用を促進するため、教員を対象とする講座等 場所を提供し、併せて館内見学を実施するほか、教育委員会や行政機関の視察 も受け入れている。
----------------------	---

来館型調べ学習の受入実績（令和3年度）

区分	小学校	中学校	高校	大学 専門学校	フリー スクール	団体等	合計
回／人	－	1回 90人	－	－	1回 14人	－	2回 104人

(3) 子どもへの読書活動支援事業・不登校児童生徒読書活動支援事業

様々な課題（生活困窮世帯・ひとり親家庭等）を抱える子どもが夢や希望を持って成長していけるように、「子どもへの読書活動支援事業」を実施している。府立図書館が所蔵している子ども向けの図書約9万冊を、京都府が実施している事業の支援を受け、「こどもの居場所づくり」や「子ども食堂」に取り組んでいる団体に、1回あたり100冊以内6箇月以内で、搬送費を含め無料で図書を貸し出した。

令和3年度は令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため多くの団体が活動を制限されたところであるが、11団体に1,200冊の貸出となり、団体数は前年度比減（前年度15団体）、貸出冊数は前年度比微増（前年度1,190冊）となった。

また、学校外の教育支援センター・適応指導教室や京都府教育委員会認定フリースクールに通所する児童生徒の読書活動の機会を充実していくために、市町村立図書館等と連携して実施する「不登校児童生徒読書活動支援事業」について、府立図書館ではフリースクールに1回あたり100冊6箇月以内で図書を貸し出している。

令和2年度は2校のフリースクールに150冊の図書を貸し出したが、令和3年度は1校のフリースクールに200冊貸し出した。なお、貸出に当たっては児童生徒、スタッフが来館し、自ら選書を行った。

3 調査研究・課題解決支援及び情報発信

(1) 大学連携

大学が所蔵する専門的な資料を府民が身近な図書館で閲覧できるよう、また、府立図書館や市町村立図書館等が所蔵する資料を大学の学生や教職員が大学図書館で閲覧できるよう、大学図書館との連携を図り、京都府図書館総合目録ネットワーク（総合目録及び連絡協力車）を活用した所蔵資料の相互貸借を順次拡大している。

これにより、府民は、府立図書館ホームページから府内公共図書館だけでなく、連携する大学図書館の所蔵資料も一括で検索し、居住地に近い公共図書館に取り寄せて閲覧することができる。

また、連携大学の学生や教職員等は、府立図書館や市町村立図書館等の所蔵資料（地域の郷土資料、専門書の多い大学図書館には所蔵されていない一般書等）を大学図書館の窓口で借りることができる。

なお、府立図書館が運行する連絡協力車を活用しており、資料の送料が不要である。

さらに、大学の授業の一環として実施されるキャリア演習、図書館司書を目指す学生の実習やインターンシップを受け入れるなど、様々な形で大学との連携を図っている。

府内の大学図書館との相互貸借の実施状況（令和4年4月1日現在）

大学図書館名	開始時期等
京都先端科学大学図書館	(従前から実施)
京都大学附属図書館	平成28年7月 相互貸借試行開始 平成29年10月 協定締結（本格実施）
京都教育大学附属図書館	平成29年3月 協定締結 平成29年4月 相互貸借開始
福知山公立大学メディアセンター	平成29年6月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
佛教大学附属図書館	平成29年9月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
京都府立医科大学附属図書館	平成30年2月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
京都工芸繊維大学附属図書館	平成30年10月 協定締結（本格実施）
京都府立大学附属図書館	平成31年3月 相互貸借試行開始 平成31年4月 協定締結（本格実施）
京都ノートルダム女子大学図書館情報センター	令和元年12月 相互貸借試行開始 令和2年4月 協定締結（本格実施）
京都橘大学図書館	令和2年1月 相互貸借試行開始 令和2年4月 協定締結（本格実施）
京都外国語大学附属図書館	令和2年12月 相互貸借試行開始 令和3年6月 協定締結（本格実施）
京都女子大学図書館	令和3年4月 相互貸借試行開始 令和4年4月 協定締結（本格実施）

(2) 京都市図書館との図書の相互返却

平成29年11月に開始した、府立図書館で借りた図書を京都市図書館（20館）で、京都市図書館で借りた図書を府立図書館で返却を預かる「京都市図書館との返却本お預かりサービス」は、身近な図書館で返却できるため利用は多い。

令和3年度は11,155冊の利用（令和元年度10,154冊 令和2年度9,348冊）があり、「身近にある京都市立図書館に返却できることは非常にありがたい」との声があり、サービスは定着してきている。

(3) 館内見学会

毎月第3水曜日の午後2時から定期的実施している「館内見学会」は、令和3年度は5・6・8・9月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止したが、秋以降は参加者数を制限して開催することができた。

見学会での主な説明内容は次のとおり。

- ア 「関西近代建築の父」と呼ばれ、京都市役所や同志社大学も手がけた武田五一により設計された旧館の外壁や外階段を保存修理して新館建替を行ったこと。
- イ 都道府県立図書館では府立図書館が初めて導入した自動化書庫と地下2階4層からなる電動積層集密書庫に、開架資料の10倍以上の膨大な資料を収めていること。
- ウ 書庫の資料の中には、教科書や映画のシナリオなどのコレクションが含まれていること。
- エ 来館者向けサービスの他に、市町村立図書館等や学校への支援を行っていること。

参加者からは、普段は見るできない図書館のバックヤードや自動化書庫等の見学を通じて「自動化書庫の大きさと設備に驚いた。」「古い教科書や雑誌など幅広いジャンルの資料があって驚いた。」「バックヤードの見学は貴重であった。府立図書館には様々な機能があり、府内の学校や図書館と連携しているのが印象的だった。」「市町村立図書館を支援していることを初めて知った。」「古い外観なのにコンピュータ化された館内に驚いた。」「裏方の仕事の大変さがわかった。」「図書館の利用の仕方がわかった。」などの感想が多く寄せられるなど、府立図書館を知ってもらおう効果の高い取組であり、今後とも感染拡大の防止を徹底しながら、開催を続けていきたい。

(4) 講演会・セミナー等

多くの方々に府立図書館を知ってもらおうとともに、来館されることがない方にも親しんでいただくなど、府立図書館を広く利用いただくことを目的に、これまでから、学識経験者、博物館、大学や府立高校と連携した様々なイベントや講座、セミナー、展示を開催している。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の大防止対策を十分講じ、オンラインで配信を行うなど4回開催した。

また、平成30年度から実施しているDVD上映会については、年間6回奇数月に予定していたが、3回の開催にとどまった。

○講演会

開催日	講師及び演題
7月31日(土)	改築20周年記念講座①『室町時代の祇園祭』 河内 将芳 氏(奈良大学文学部教授)
11月2日(火)～ 21日(日)配信 11月11日(木) 上映会	改築20周年記念講座②『不思議の国の文字』 菱川 邦俊 氏(京都外国語大学外国語学部ロシア語学科教授)
10月30日(土)	改築20周年記念講座③『クルーガー文庫』 多田 英俊 氏(京都府立嵯峨野高等学校教諭)
1月8日(土)	改築20周年記念講座④『京の国宝建造物細見ー桃山建築を中心に』 鶴岡 典慶 氏(京都女子大学 家政学部教授)

○DVD上映会

京都をテーマとした作品や、幅広い年齢の方にご覧いただける作品を上映。

開催日	内容
7月28日(水)	かっぱ川太郎・黒いきこりと白いきこり・こねこのらくがき・生きているってすばらしい!(昭和中頃短編アニメ4本)
1月20日(木)	荒野に希望の灯をともし〜医師・中村哲 現地活動35年の軌跡〜
2月22日(火)	世界ネコ歩きスペシャル京都の四季(2回上映)

○イベント・展示等

開催日	実施内容	会場
4月23日(金)～ 5月26日(水)	稀観書展示会「鎖国時代からの日露交渉史料と同時期のロシア文学」 ※京都外国語大学との共催展示	ナレッジベース エントランス
6月1日(火)～ 8月1日(日)	改築20周年記念展示① 「階段」	エントランス

8月3日(火)～ 9月30日(木)	改築20周年記念展示② 「建築金物」	エントランス
9月29日(水)～ 10月27日(水)	改築20周年記念連携展示 「発掘された京都の歴史 —40年間の調査から—」	ナレッジベース
10月5日(火)～ 11月28日(日)	改築20周年記念展示③ 「煉瓦」	エントランス
11月30日(火)～ 12月19日(日)	「CONNECT ₂ 」 and DOMANI@京都展	ナレッジベース

(5) 資料展示

「思いがけない本との出会い」を演出するため、イベントとのコラボレーション、京都に関すること、季節の話題、時事問題等をテーマとして、関連する府立図書館の所蔵資料を一箇所集めた展示を通年にわたり実施した。

作成したブックリストは展示終了後も館内やホームページで提供し、レファレンス等にも活かしている。

○所蔵資料テーマ展示

展示タイトル	期間	関連イベント等
1階コーナー		
贈る言葉	3月～4月	
外国語で読む京都と日本文化	4月～	
1階展示ケース		
京の医学	4月～5月	
京のお茶	5月～7月	
集書院とその時代	7月～9月	
京都府立図書館の資料保存 ～未来の利用者に届けるために～	10月～11月	
京の映像文化 ～明治の映画～	11月～1月	
京都市電のあゆみ	2月～3月	
埋もれた古道を探る	3月～5月	
地下特設コーナー		
本から見つけるデザインのヒント	3月～5月	
地図や時刻表でめぐる空想旅行	5月～7月	
科学の名著	7月～9月	
広がる古典の世界 ～源氏と平家の物語～	10月～11月	
つながる社会 塙保己一という視座	11月～1月	
装いで語る顔を身体	2月～3月	
スペイン カタルーニャの建築家 アントニ・ガウディ Antoni Gaudí i Cornet	3月～5月	
ミニコーナー		
木を遺す、木を伝える —木製品の調査と保存—	3月～4月	
春めく本	3月～4月	
ロシアを知る・ロシア映画小説	4月～5月	
「階段」関連所蔵図書	6月～8月	
追悼 立花 隆氏	7月～8月	

日本政策金融公庫連携展示 開業・創業	7月～8月	
東京オリンピック・パラリンピック	7月～9月	
上村松園	8月～9月	京都市京セラ美術館
「建築金物」関連所蔵図書	8月～10月	
呪術の世界と京都	9月～10月	みやこめっせ
発掘された京都の歴史 —40年の調査から—	9月～10月	
「煉瓦」関連所蔵図書	10月～11月	
『文学』を書いてみる	10月	
紅茶の世界	10月～11月	
瀬戸内寂聴さんを偲んで	11月～12月	
刀剣の世界	11月～12月	みやこめっせ
武田五一と美術工芸	11月～12月	
はみだす芸術	11月～12月	CONNECT
寅（トラ）をめぐる	1月	
ねこの本、こちらです。	2月～3月	
ウクライナを知る、思う	3月	
埋もれた古道を探る	3月	
講演会関連展示		
記念講演会「室町時代の祇園祭」	7月～8月	
京の国宝建造物細見 —桃山建築を中心に—	1月	
エントランス展示		
春めく本	3月～4月	
「鎖国時代からの日露交渉史料と同時期のロシア文学」関連展示	4月～5月	
京都府立図書館改築から20年 残された部材でめぐる建築と本の世界 (No. 1)	6月～8月	
日本政策金融公庫連携展示 開業・創業	7月～8月	
京都府立図書館改築から20年 残された部材でめぐる建築と本の世界 (No. 2)	8月～10月	
京都府立図書館改築から20年 残された部材でめぐる建築と本の世界 (No. 3)	10月～11月	
2階展示		
京都で撮影された映画 (1945年以前)	11月～1月	
映像の中のねこ	2月～3月	
ウクライナを知る、思う	3月	

(6) ナレッジベース（知的な交流の場）

知的な交流の場の活動拠点として、平成29年度に2階会議室を「ナレッジベース」と名付け運用を開始し、様々な機関との連携を積極的に推進している。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため取組を控えることとなったが、これまで、情報の拠点としての図書館ならではの強み（豊富な図書資料・データベース等と、司書の専門性を活かしたレファレンス等）を活かして、岡崎魅力づくり推進協議会、民間機関、NPO等と連携した取組を実施してきたところである。

(7) 地域連携

京都有数の観光地である岡崎に立地する府立図書館は、「京都岡崎魅力づくり推進協議会」に加盟している。近隣の文化施設等と連携した様々な取組を展開、館内には近隣施設のチラシ

の配架、観光情報コーナーなどを設置している。特に、近接する京都市京セラ美術館、京都国立近代美術館等については、主な展覧会の時期に合わせて所蔵資料テーマ展示を行っているほか、過去の図録を集めたコーナーも設置している。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、岡崎地域の大きなイベントの実施は控えたが、『刀剣乱舞－ONLINE－六周年企画「現世遠征 都結び」』の開催に合わせ、「刀剣の世界」をテーマに、京都にまつわる刀や刀剣の入門書、専門書を展示するなど、岡崎地域の盛り上げに協力したところである。

(8) 広報

府立図書館は明治の面影を残す「歴史ある図書館」として知られており、令和3年度もマスコミ各社へ積極的に新規事業やイベント、展示に関する情報提供を行った結果、数々の媒体に取り上げられた。

また、令和3年3月からSNS(Twitter)も活用し若年層や新たな利用者に向け積極的に情報発信している。

V 施 設 等

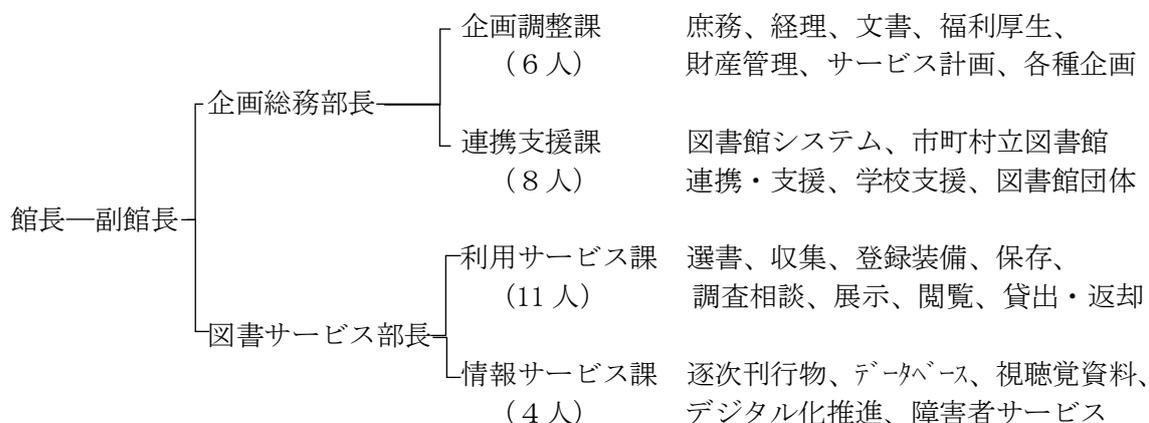
1 施設及び設備等

- (1) 所在地等
〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町71番地
(平成28年9月30日改正条例公布、平成29年4月1日施行)
TEL : 075-762-4655 FAX : 075-762-4653 HP : <https://www.library.pref.kyoto.jp/>
- (2) 開館日
平成13年5月11日(建替による新館開館。府立図書館設置は明治31年)
- (3) 建築費
617,415万円(外構工事・設備・家具等含む)
- (4) 収蔵規模
約150万冊(令和3年度末資料数 約134万冊)
 - ・書架(1,710㎡) 約10万冊
 - ・書庫(1,776㎡) 電動積層集密書庫約100万冊 自動化書庫約40万冊
- (5) 利用者端末(令和4年4月現在)
 - 蔵書検索
 - ・当館蔵書検索用端末(OPAC)15台
 - ・他館蔵書検索用端末5台
 - データベース
 - ・データベース閲覧端末8台
 - ・新聞記事データベース閲覧端末5台
 - ・CD-ROM閲覧端末2台
 - 国会デジタル
 - ・国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧端末4台
 - インターネット
 - ・インターネット閲覧端末15台
 - ・インターネット等受付用端末2台
 - その他マルチメディア等
 - ・マイクロリーダー3台
 - ・映像ブース6台
 - ・音声ブース2台
 - ・障害者サービス用端末3台
- (6) 開館時間
火曜日～金曜日：午前9時30分～午後7時
土・日曜日、祝日：午前9時30分～午後5時
- (7) 休館日
月曜日(祝日及び振替休日は開館、翌日が休館)
毎月第4木曜日(祝日は開館)
年末年始、特別整理期間

2 組織【令和4年4月1日現在】

常勤職員 32人

非常勤職員 17人（館長1人・会計年度任用職員16人）



3 経費

(単位：千円)

科目	事項	3年度 決算額	摘要
1 図書館費 (3以外)	人件費	293,042	
	資料費	38,623	図書 32,652 逐次刊行物 5,971
	事業費	155,939	
	小計	487,604	
2 図書館費外	事業費	10	
	小計	10	事務局費/教育連絡調整費
3 図書館費 (国庫事業)	電子書籍活用	31,888	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時
	感染防止対策	800	交付金を活用した臨時事業
	小計	32,688	
合計		520,302	

V 沿 革

1 年表

明治31年(1898) 4月	府立京都図書館御苑内創立	昭和25年(1950) 7月	峰山地方分館開館(奥丹後地方教育局内、昭和30年6月(丹波公民館内)、同37年9月(丹波小学校内)、同55年4月(峰山町中央公民館内)移転、平成9年3月閉館)
〃 6月	業務開始	〃 8月	学生自由閲覧室新設
33年(1900)	夜間開館開始	〃 11月	京都府立図書館設置条例公布(条例第62号)
36年(1903) 10月	巡回図書館(貸出文庫)制度開始(昭和25年3月廃止)	26年(1951) 4月	上京分館開館(北区紫郊会館内、昭和31年5月(桜谷文庫内)移転、同51年5月閉館)昭和26年(1951) 9月 本館大閲覧室屋根修理着工休館
38年(1905) 4月	児童室開設(大正14年3月閉鎖)	〃 10月	本館蔵書一部知恩院倉庫に別置
39年(1906) 6月	館外貸与規則制定告示	〃 11月	本館大閲覧室安全開架式化
〃 11月	新館起工式	〃 12月	本館新体制で開館
42年(1909) 2月	新館竣工	27年(1952) 6月	本館読書相談係設置
〃 3月	京都府立京都図書館規則告示	〃 7月	園部地方分館開館(園部町立図書館内、昭和41年11月閉館)
〃 4月	新館開館		北桑田地方分館開館(京北町下中、昭和54年8月(京北農業協同組合弓削支所内)仮移転、同55年3月閉館)
大正 8年(1919) 1月	本館図書分類目録編纂に着手		木津地方分館開館(旧役場内、昭和29年7月(木津小学校内)、同38年5月(町民センター内)移転、同50年3月閉館)
11年(1922) 4月	貸出文庫を増設	28年(1953) 4月	本館月曜日休館を実施
昭和 3年(1928) 3月	帯出規程告示	29年(1954) 2月	伏見分館新築工事着工
〃 4月	個人貸出実施	〃 9月	京都府立図書館「善本目録」作製
〃 6月	和漢図書分類目録分類表12冊作製	30年(1955) 9月	青年学級文庫実施
8年(1933) 10月	京都府中央図書館に指定	32年(1957) 6月	中京分館(河原町分館改称)開館(烏丸庁舎内、昭和40年1月(京一商同窓会館)仮移転、同40年11月(京都府中京庁舎内)移転、平成13年3月閉館)
16年(1941) 5月	児童室復活開室(昭和23年4月元貴賓室に移転)	35年(1960) 10月	中京分館館外貸出実施
22年(1947) 8月	館外貸出廃止	38年(1963) 3月	本館読書相談係・学生自由閲覧室・貸出文庫閉鎖、蔵書の一部を府立総合資料館へ移管
23年(1948) 9月	読書ルーム開設(河原町丸善京都店地下)		
24年(1949) 4月	読書相談開始		
〃 6月	河原町分館開館(河原町丸善京都店地下、昭和31年9月閉館)		
25年(1950) 2月	伏見分館開館(伏見信用金庫2階、昭和29年7月移転、同63年3月閉館)		
〃 6月	宮津地方分館開館(宮津町役場内、昭和28年4月(宮津市図書館内)、同32年10月(労働セツルメント内)、同39年5月(宮津市立図書館内)、同46年8月(新宮津市立図書館内)移転、平成9年3月閉館)		
昭和25年(1950) 7月	綾部地方分館開館(綾部市立図書館内、昭和38年7月(市民センター内)移転、同41年9月閉館)		

昭和38年(1963)11月	本館日曜・土曜午後・夜間休館	昭和58年(1983) 3月	「京都府の公共図書館」刊行
〃 12月	児童室土・日曜休室		伏見分館ブックポスト設置
39年(1964) 1月	本館外装改修工事	〃 6月	図書館協力貸出本格実施
〃 5月	本館夜間・土曜午後再開(9時まで)、貸出室設置	〃 7月	新着図書案内発行
	児童室館外貸出実施、土曜日開室	59年(1984)12月	連絡協力車試験的運行開始(2コース)
	伏見分館館外貸出実施	60年(1985) 7月	国立国会図書館とのオンライン利用実験実施
〃 7月	市内分館日曜日休館	61年(1986) 8月	京都府教育委員会教育長から「生涯学習社会を展望する京都府の図書館のあり方」を京都府社会教育委員会議へ諮問
40年(1965) 7月	児童室に母親文庫設置	〃 12月	昭和61年度全国公共図書館参考事務研究集会開催
〃 9月	京都府教育委員会基本規則一部改正	62年(1987)10月	国立国会図書館とオンライン実施
	教育庁係等設置規程一部改正により課制施行	63年(1988) 3月	「京都府の公共図書館1987年版」刊行
41年(1966)11月	自動車文庫命名式(蛭川知事「あゆみ号」と命名)	〃 10月	図書館資料広域貸出事業開始
	移動図書館事業開始(平成2年12月終了)		「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会と共同刊行
42年(1967) 7月	本館修繕工事	平成 2年(1990) 3月	「点字・録音図書目録(点字版)」刊行
〃 9月	貸出室移転再開	〃 4月	連絡協力車事業本格実施
44年(1969)12月	本館夜間閉館時間を7時に変更	〃 6月	機構改正により本館は4課組織に
46年(1971) 8月	本館貸出室の図書を閲覧室に統合、第2閲覧室開室	3年(1991) 3月	本館模様替内装工事(受付カウンター・新聞雑誌室等配置換)
	貸出方式をブラウン方式に切替	〃 6月	マイクロリーダプリンターのサービス開始
48年(1973) 4月	上京分館館外貸出実施	〃 8月	「連絡協力車だより」発刊
50年(1975) 3月	身体障害者用便所・スロープ新設	4年(1992) 9月	毎月第2土曜日 児童室 午前9時半から開室開始
〃 5月	本館(閲覧室・中央カウンター・新聞雑誌室開設)内装工事	5年(1993) 3月	「京都府の公共図書館 1992年版」刊行
	本館閲覧室を完全開架式に切替	6年(1994) 3月	「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会、京都府立総合資料館と共同刊行
51年(1976) 4月	本館閲覧用目録作成に着手	7年(1995) 2月	阪神・淡路大震災(1月17日)による本館一部被害の補修・補強工事実施
〃 6月	京都府図書館等連絡協議会発足、府立図書館に事務局を置く	〃 5月	老朽化による安全対策のため館内模様替え(事務室1階への移動等)実施。5月1日から2箇月間臨時休館(7月3日再開館)
〃 7月	児童室改修工事		
53年(1978) 3月	本館改修工事(外装・屋根葺替・玄関・防災設備)		
	本館閲覧用目録整備完了		
54年(1979) 3月	本館書庫改修工事		
〃 4月	国会図書館からの図書貸出制度発足		
	本館自習室閉鎖		
〃 11月	「専門情報機関要覧」刊行		
56年(1981) 9月	移動図書館用電動集密書架設置		
〃 12月	伏見分館改修工事		
57年(1982) 7月	障害者サービス(対面朗読)実施		
58年(1983) 2月	生涯教育推進事業として読書推進講座実施		

平成7年(1995)	8月	連絡協力車北部コースの運行を月2回に拡充(全市町村月2回運行)	平成13年(2001)	2月	仮施設及び府立総合資料館からの図書資料移転終了	
	〃	9月		4月	機構改正により2課制(総務課：2係、資料課：4担当)施行	
	〃	12月			京都府立図書館の管理運営に関する規則(平成13年京都府教育委員会規則第1号)施行	
8年(1996)	3月	平成8年度当初予算に府立図書館整備費を計上		5月	京都府立図書館個人貸出規程等、各種規程施行	
	〃	9月			開館式	
					京都府図書館総合目録ネットワークのインターネット発信開始	
					一般開館	
					連絡協力車の毎週運行開始	
				6月	京都府図書館総合目録ネットワーク運用開始	
9年(1997)	3月	平成9年度当初予算に実施設計費等を計上	14年(2002)	4月	「子ども読書絵がみコンテスト」実施	
	〃	4月		2月	館内完全分煙実施	
	〃	9月		4月	インターネット貸出待ち登録サービス開始	
平成10年(1998)	3月	府立図書館解体工事及び壁面(東側前面)保存工事完了 平成10年度当初予算に新館建設工事費等を計上		5月	電話による貸出延長サービス開始	
	〃	7月		12月	京都府図書館総合目録ネットワークに府内全市町村が参加	
	〃	9月		3月	取寄せ申込みeサービス開始	
	〃	11月		4月	連絡協力車の一部の府立高校への巡回開始	
11年(1999)	2月	平成10年度近畿地区公共図書館研修開催	20年(2008)		源氏物語千年記念事業(小展示・パネル展等)開催	
	〃	3月		5月	インターネット貸出延長サービス開始	
	〃	6月		9月	学校支援セット貸出開始	
12年(2000)	3月	平成12年度当初予算に新築工事費等計上	21年(2009)	3月	所蔵音声資料の音声目録CD-ROM(デジ版)作成、配布	
	〃	5月		6月	府立図書館「岡崎」100周年記念事業(小展示・パネル展等)開催(～22年3月)	
	〃	10月		9月	府立図書館「岡崎」100周年記念パンフレット作成	
	〃	11月		11月	国立国会図書館関西館との連携(連絡協力車の運行)	
				22年(2010)	4月	学校支援セット貸出小中用CD-ROM目録を作成、配付
				9月	京都府立医科大学附属図書館と連携した府民講演会開催	
				10月	新着図書お知らせサービス開始	

平成23年(2011) 4月	祝日開館を実施 学校支援ポータルサイト開設	平成29年(2017) 3月	京都教育大学附属図書館との相互貸借に関する連携協定締結 (運用29年4月～)			
〃 8月	館内全面禁煙の実施	〃 4月	京都府立図書館協議会を設置 連絡協力車の市町村立図書館等への巡回を週2回に増便			
〃 12月	京都大学研究者等と連携したサイエンスイベント開催	〃 10月	知的な交流の場「ナレッジベース」の試験運用開始			
24年(2012) 4月	子ども読書本のしおりコンテスト実施	〃 11月	子どもへの読書活動支援事業開始			
〃 8月	府立図書館サービス計画策定	京都市図書館との「本の相互返却サービス」の試行開始	〃 12月	マイナンバーカードを活用した「図書館共同利用システム」実証事業に参画		
〃 11月	図書館活用講座実施	〃 7月	24年度図書館評価(試行)を社会教育委員会議で報告	30年(2018) 4月	福知山公立大学メディアセンター、佛教大学附属図書館、府立医科大学附属図書館との相互貸借本格実施	
25年(2013) 3月	府立図書館のシンボルマークと和文ロゴタイプ作成	〃 9月	学校支援セットの府立高校(非巡回校)への直送実施	府議会図書館を窓口とした京都府庁への図書資料の配送の試験運用開始	〃 10月	京都工芸繊維大学附属図書館との相互貸借本格実施
〃 7月	24年度図書館評価(試行)を社会教育委員会議で報告	〃 11月	学校支援セットの府立高校(非巡回校)への直送実施	〃 11月	京都市図書館との「本の相互返却サービス」を「京都市図書館との返却本お預かりサービス」として本格実施	
〃 9月	学校支援セットの府立高校(非巡回校)への直送実施	26年(2014) 9月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始	31年(2019) 2月	岡崎での開館110周年記念事業実施	
27年(2015) 4月	府立図書館サービスの充実に向けた検討会議設置	府民利用施設のあり方検証において「見直すべき施設」に区分連絡協力車の全府立高校への巡回開始	サピエ/視覚障害者情報総合ネットワークのサービス開始	〃 3月	京都府立大学附属図書館、花園大学情報センター(図書館)との相互貸借試行開始	
〃 6月	府立図書館サービスの充実に向けた検討会議設置	28年(2016) 3月	図書館システム更新	〃 4月	京都府立大学附属図書館との相互貸借本格実施	
28年(2016) 3月	図書館システム更新	府立図書館基本方針及び府立図書館サービス計画策定	〃 4月	機構改正により部課制(企画総務部:2課、図書サービス部:2課)施行	令和元年(2019) 7月	SNS(Twitter)による情報発信開始
〃 4月	機構改正により部課制(企画総務部:2課、図書サービス部:2課)施行	カーリル社と連携協定締結	〃 7月	京都大学附属図書館との相互貸借試行開始(29年10月本格実施)	〃 9月	不登校児童生徒読書活動支援事業を開始
〃 7月	京都大学附属図書館との相互貸借試行開始(29年10月本格実施)	〃 9月	図書館協議会設置のため、京都府立図書館設置条例全部改正、京都府立図書館条例公布(29年4月1日施行)	2年(2020) 3月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館	
〃 9月	図書館協議会設置のため、京都府立図書館設置条例全部改正、京都府立図書館条例公布(29年4月1日施行)	〃 11月	京都府図書館総合目録ネットワークシステムの充実を図る産官学連携プロジェクト開始	〃 4月	京都花園大学情報センター(図書館)、京都ノートルダム女子大学図書館情報センター、京都橘大学図書館との相互貸借本格実施	
〃 11月	京都府図書館総合目録ネットワークシステムの充実を図る産官学連携プロジェクト開始	〃 12月	京都府立図書館協議会委員の第1期委員公募開始	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館	〃 5月	サービスを限定し再開(当初は貸出・返却のみとしその後拡大)
〃 12月	京都府立図書館協議会委員の第1期委員公募開始	府内図書館等館長会議開催	29年(2017) 2月	全国の公立図書館初のクラウドソーシング開始		

<p>令和 2年(2021)10月 利用制限全面解除</p> <p>12月 京都外国語大学附属図書館との相互貸借試行開始</p> <p>3年(2021) 1月 一部利用制限（閲覧席削減等）</p> <p>〃 2月 郵送貸出サービス開始</p> <p>〃 3月 京都花園大学情報センター（図書館）との連携解消（双方合意）</p> <p>図書館システム更新</p> <p>府立図書館基本方針及び府立図書館基本方針及び府立図書館サービス計画（令和3年度～令和7年度）策定</p> <p>〃 4月 京都女子大学図書館との相互貸借試行開始</p> <p>〃 6月 京都外国語大学附属図書館との相互貸借本格実施</p> <p>〃 10月 旧館時代ルネサンス扉の恒久展示</p> <p>令和 4年(2020)1月 オンライン対面朗読試行開始</p> <p>〃 4月 オンライン対面朗読本格実施</p> <p>京都女子大学図書館との相互貸借本格実施</p> <p>電子書籍・オーディオブックサービス提供開始</p>	
---	--

2 歴代館長

氏名	在職期間
三宅 五郎三郎	明治 31 年 4 月 ～ 明治 33 年 3 月
原田 千之助	明治 33 年 3 月 ～ 明治 33 年 12 月
中道 貫一 (館長心得)	明治 34 年 1 月 ～ 明治 34 年 2 月
三宅 五郎三郎	明治 34 年 4 月 ～ 明治 37 年 3 月
湯浅 吉郎	明治 37 年 3 月 ～ 大正 5 年 5 月
北畠 貞顕	大正 5 年 10 月 ～ 昭和 15 年 11 月
内藤 乾吉	昭和 15 年 11 月 ～ 昭和 22 年 7 月
西村 精一	昭和 22 年 7 月 ～ 昭和 38 年 10 月
相馬 利雄	昭和 38 年 10 月 ～ 昭和 45 年 8 月
岩崎 彰之助	昭和 45 年 8 月 ～ 昭和 47 年 4 月
吉川 博明	昭和 47 年 4 月 ～ 昭和 48 年 6 月
庄林 二三雄	昭和 48 年 6 月 ～ 昭和 49 年 4 月
宮本 英男	昭和 49 年 4 月 ～ 昭和 50 年 3 月
布村 忠雄	昭和 50 年 4 月 ～ 昭和 55 年 4 月
長谷川 啓司	昭和 55 年 4 月 ～ 昭和 56 年 4 月
浜辺 一彦	昭和 56 年 4 月 ～ 平成元年 7 月
上田 将 (本庁指導部長兼任)	平成元年 7 月 ～ 平成元年 9 月
林 芳男	平成元年 9 月 ～ 平成 4 年 4 月
柴田 實	平成 4 年 4 月 ～ 平成 6 年 5 月
高木 多喜男	平成 6 年 6 月 ～ 平成 8 年 3 月
五十嵐 一郎	平成 8 年 4 月 ～ 平成 10 年 3 月
西山 隆史 (本庁指導部長兼任)	平成 10 年 4 月 ～ 平成 10 年 5 月
小山 雄一	平成 10 年 6 月 ～ 平成 13 年 3 月
中里 隆憲	平成 13 年 4 月 ～ 平成 16 年 3 月
津守 俊一	平成 16 年 4 月 ～ 平成 19 年 3 月
松田 定	平成 19 年 4 月 ～ 平成 21 年 3 月
勝間 喜一郎	平成 21 年 4 月 ～ 平成 24 年 3 月
宮野 文穂	平成 24 年 4 月 ～ 平成 28 年 3 月
丸川 修	平成 28 年 4 月 ～ 令和 3 年 3 月
山口 隆範	令和 3 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月
松本 一男	令和 4 年 4 月 ～

京都府立図書館基本方針

(令和3年4月改定)

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の文化遺産となる出版物等を適切に収集・保存し、様々なサービスにより提供する場です。

府立図書館は、この理念を踏まえ、急激な社会変化に対応していくため、歴史と大学のまち京都の立地を活かしながら、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民の調査研究や知的活動の拠点となることを目指します。

I 府内全域の図書館等をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

市町村立図書館・学校図書館等の活動を支援するとともに、各館と協力して、府内の図書館サービスの充実を図ります。また、府民に的確な情報を提供するため、市町村立図書館・学校図書館・大学図書館等をつなぎ、ハブとしての機能を果たします。

II 多様な文化資源の情報を取り扱い、幅広い調査研究のニーズに応えます

府立図書館の役割に応じた資料の収集を行うとともに、多様な文化資源に関する情報を取り扱います。また、様々な情報を求める人々が利用しやすい図書館サービスを提供し、幅広い調査研究のニーズや府民の知的好奇心に応えます。

III 大学等研究機関や文化施設等と連携するとともに、多様な議論の場を提供することにより、文化の振興と地域の活性化に寄与します

100年を超える府立図書館の歴史、文化施設が集中する岡崎という立地、大学のまち京都の特性を最大限に活かし、様々な機関と連携して事業展開を図るとともに、多様な議論の場を提供することにより、文化の振興と地域の活性化に寄与します。

京都府立図書館資料収集方針

(平成 28 年 12 月改正)

京都府立図書館は、創設以来百年を超える収集資料を継承し、府内の中核的図書館として、現在及び将来の利用者のために、多様かつ的確な情報により資料を選定し、収集し、保存する。

1 基本的な考え

- (1) 府民の調査研究の拠点及び生涯学習を支援する図書館としてふさわしい資料を収集する。
- (2) 府内図書館ネットワークのセンターとして、市町村立図書館及び学校図書館振興のための資料を収集する。
- (3) 京都府立京都学・歴彩館をはじめとする文化施設との連携を考慮し、資料を収集する。
- (4) 多様な意見のある事柄については、幅広い観点から資料を収集する。

2 収集する資料

- (1) 収集する資料の種類は、図書、逐次刊行物、映像・音響・電子資料、障害者向け資料等とする。
- (2) 収集部数は原則として1部とする。
- (3) 収集した資料は、原則として永年保存とする。

3 収集方法

購入、寄贈等により収集する。

4 資料収集の協議

重要事項については、収集委員会により協議する。

5 資料選定の具体的基準

収集する資料の選定については、別に定める資料収集基準による。

京都府立図書館サービス計画

(令和3年3月策定)

京都府立図書館では、「京都府立図書館サービス計画（令和3年度～令和7年度）を策定しました。

この計画は、平成27年度に策定した「京都府立図書館サービス計画（平成28年度～令和2年度）」が本年度末に終了することから、これまでの成果と課題を踏まえ、府民へのサービスの向上を図るため、今後5年間の新たなサービス計画を策定したものです。

■ 計画案のポイント

市町村立図書館・読書施設、学校図書館への支援、府民の調査研究支援を引き続き重要な柱として位置づけ、3つの基本方針と17の取組項目を記載

- I 府内全域の図書館等をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します
- II 多様な文化資源の情報を取り扱い、幅広い調査研究のニーズに応えます
- III 大学等研究機関や文化施設等と連携するとともに、多様な議論の場を提供することにより、文化の振興と地域の活性化に寄与します

■ 主な取組

(1) 大学等様々な機関と連携した取組

- 全ての府立学校の蔵書をインターネットを通じて検索し相互貸借することができる取組
- 大学生による「図書館応援チーム（仮称）」が企画・実施する取組
- 近隣文化施設と連携した取組

(2) 情報機器の普及に対応する取組

- 閲覧室にWi-Fi環境を整備するなど調査研究に役立つ取組
- 電子書籍をスマートフォン等情報通信機器により利用できる取組
- 利用案内や調べ案内のオープンデータでの提供

(3) 非常時における取組

- 市町村立図書館・読書施設等のニーズを踏まえた職員が参加しやすい研修（オンラインを含む）
- インターネット等による図書の郵送貸出等の取組
- 電話やインターネット等によるレファレンスサービス

事業概要（令和3年度のまとめ）

令和4年8月発行

発行者 京都府立図書館
〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町
TEL (075) 762-4655 (代)
FAX (075) 762-4653
URL <https://www.library.pref.kyoto.jp/>